



広島市立安佐市民病院広報紙

—第35号—

〒731-0293 広島市安佐北区可部南二丁目1-1

TEL : 082-815-5211 (代)

<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp>

ごあいさつ

広島市立安佐市民病院

副院長 平林 直樹



■病院長の補佐役として

本年度より副院長を拝命しました。副院長の副とは、この場合、主たるものを補佐するという意味ですので、病院長の多幾山を補佐しないといけない訳ですが、私の経歴からすれば、まずは、がんの診断と治療に関する領域全般の運営に関する補佐が一番ではないかと思っております。

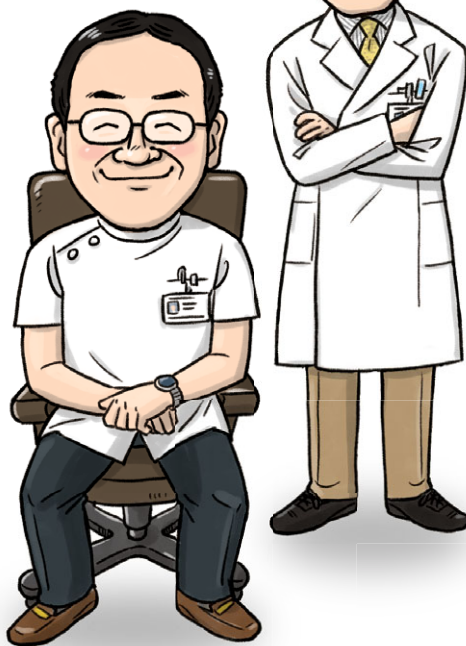
■がん治療と急性期医療の両立

当院ではがん治療を行いながら、一方で急性期病院としての機能（急病になった患者さんの診察を行なうこと）も求められています。

そこで、なるべく多くの患者さんを診察し、必要であれば速やかに入院治療を行うという観点から、入院中の患者さんには、当院でなくとも治療が可能となった状態になれば、早期の退院をお願いせざるを得ない状況が生じています。ところが、当院を取り巻く医療圏の中では、大都市圏と異なり、引き続き

平林副院長▶

▼多幾山病院長



入院が必要な患者さんをお願いするいわゆる連携病院が限られております。その結果、当院の方が自宅から近いのに遠い病院への転院を告げられた、あるいは、がんの患者さんで具合が悪くなった時には当院での治療を受けられると思っていたのに、他の病院への転院を告げられ戸惑われたという方もおられるのではないかと思っております。

感じ方は異なるのではないのでしょうか。すなわち、急な病気で診察と入院を希望された場合と、入院中でもう少し養生をしたいと考えておられた場合とです。頭では分かっているつもりでも、その立場になれば、どうしても自分が置かれている立場で物事を考えてしまうのは致し方ないことだと思います。

■地域全体で育む医療

それではそのような状況を、どのように解決して行けばよいのでしょうか？

今すぐに解決できる妙案は、残念ながらありません。しかしながら、日本人には「どんな時でも規律や道徳を守り他人のことを思いやる」という大変素晴らしい特性があり、まさに東日本大震災の時の日本人の行動がそれを証明しています。

そこで大上段に構える訳ではないのですが「まめでがんす」の愛読者の皆様には、院内外の医療資源が限られている中で、一生懸命に地域の拠点病院としての機能を果たそうとして身を粉にして頑張っている当院の「スタッフと当院」を、地域の中で育てていくんだという気持ちで日頃から持って頂ければと思っております。

■病院の広報役として

私の副院長としてのもの一つの仕事は、当院を現在すでに利用されている、あるいは将来利用されるかもしれない多くの方々に当院のファンになって頂くために、このような情報や考えを広報誌やホームページなどによって発信し続けることではないかと思っております。

新米副院長も暖かく育てて頂ければとお願いしつつ、私のご挨拶に替えてさせて頂きます。

ワクチンで防げる
病気と

【ワクチンとは】

ワクチンとは、ウイルスや細菌の病原性（毒性）を弱めたり無くして投与したり、またはその毒素の毒性を無くして投与することで人体にそのウイルスや細菌に対する免疫を獲得させようというものです。

世界中には様々な感染症があり、その中にはワクチンで防げる感染症もあり、予防できるのであればワクチン接種をするというのが感染制御の基本です。

ところが数年前のことです。我が国で若者に麻疹が流行して社会問題になりました。百日咳が密かに蔓延していたり、肺炎球菌感染によるご老人の肺炎が問題になったり（ご老人の場合には肺炎球菌以外に誤嚥性肺炎も問題です）など、医療先進国を自負しながらワクチン接種率が低く、感染症に対する防御が甘いのが我が国の現状です。

【日本で使用可能なワクチン】

米国疾病予防センター（CDC：Centers for Disease Control and Prevention）によればワクチンで予防可能な疾患は25種類以上存在するとしていますが、我が国では表1に記載しているワクチンのみが使用可能となっています。

ポリオワクチンは我が国では経口生ワクチンが使用され、国内での野生株によるポリオの発生は認められていません。しかし、ワクチン株によるポリオの発生が問題になってお

ワクチン
接種について

り、このたび生ワクチンから不活化ワクチンに切り替えられることになりました。不活化ポリオワクチンは本年9月から単独でも使用可能ですが、11月からはDPTに混合された4種混合ワクチンとして使用されることになりそうです。

【定期接種と任意接種】

ワクチン接種は定期接種とそれ以外の任意接種に分けられます(表1)。

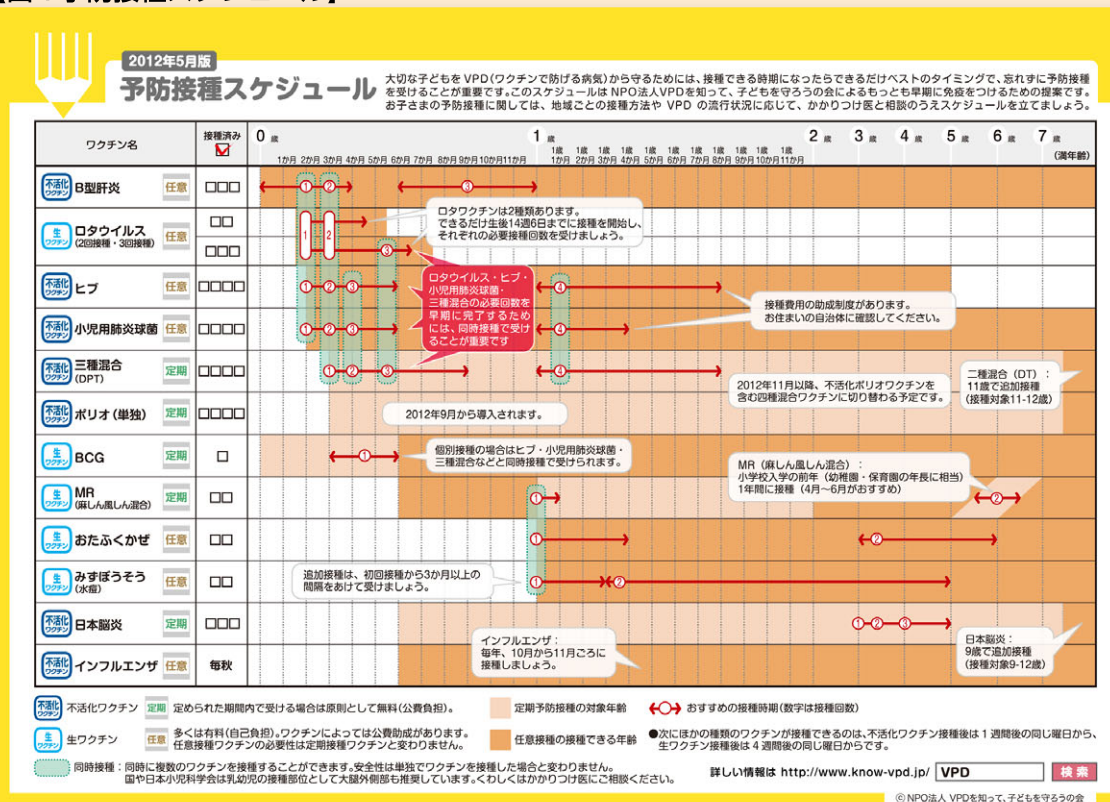
定期接種は予防接種法に基づいて市町村が主体となって実施する予防接種で、その種類や接種時期がこの法律で定められています。接種対象者やその保護者には接種の努力義務があり、その際には公費助成制度があります。もしもワクチン接種により健康被害が生じた場合には救済制度もあります。

一方、任意接種は定期接種以外の予防接種であり、接種を受けるかどうかは接種対象者やその保護者の任意となっています。自己負担や公費助成制度は自治体毎に異なっており、健康被害が生じた場合には他の医薬品同様に医薬品副作用救済制度が適応されます。

【予防接種スケジュール】

インフルエンザワクチンは全ての年齢の方が対象になりますが、感冒の流行する時期には特に高齢の方には接種

【図 1 予防接種スケジュール】



をしておいていただきたいものです。

麻疹、風疹は乳幼児期から青年期まで接種時期があり、ヒトパピローマウイルスワクチンは小児～思春期での摂取が推奨されています。

ワクチンの接種対象年齢や接種回数は表1の通りですが、多くのワクチンを乳幼児期から接種しなければならず、そ

のスケジュール設定は複雑になります。小児に対する予防接種は定期接種も任意接種も必要なワクチンとして、日本小児学会では図1のような投与スケジュールを作成しています。詳細はかかりつけの小児科医院などに相談されるとよいでしょう。

【表 1. ワクチンで防ぐことのできる疾患と我が国で使用できるワクチン】

疾 患	ワ ク チ ン	種 別	接種対象年齢			接種回数
季節性インフルエンザ	インフルエンザHAワクチン	一部定期	全年齢			13歳未満は1回 13歳以上は1または2回
結核	B C Gワクチン	定期	6ヶ月齢までに（やむを得ない場合には1歳までに）			1回
ジフテリア	DPT・DTワクチン	定期	1期	初回	3ヶ月齢から90ヶ月齢までにあるもの	DTは2回、DPTは3回
				追加	3～90ヶ月齢	1回
			2期(DTを使用)		11歳以上13歳未満	1回
日本脳炎	日本脳炎ワクチン	定期	1期	初回	6～90ヶ月齢	2回
				追加	6～90ヶ月齢	1回
			2期		9歳以上13歳未満	1回
麻疹	MRワクチン	定期	1期	12～24ヶ月齢		1回
			2期	5歳以上7歳未満で、小学校就学前の1年間		1回
			3期	13歳となる日の属する年度		1回
			4期	18歳となる日の属する年度		1回
破傷風	DPT・DTワクチン	定期	1期	初回	3ヶ月齢から90ヶ月齢までにあるもの	DTは2回、DPTは3回
				追加	3～90ヶ月齢	1回
			2期(DTを使用)		11歳以上13歳未満	1回
百日咳	DPTワクチン	定期	1期	初回	3ヶ月齢から90ヶ月齢までにあるもの	DTは2回、DPTは3回
				追加	3～90ヶ月齢	1回
			2期(DTを使用)		11歳以上13歳未満	1回
風疹	MRワクチン	定期	1期		12～24ヶ月齢	1回
			2期		5歳以上7歳未満で、小学校就学前の1年間	1回
			3期		13歳となる日の属する年度	1回
			4期		18歳となる日の属する年度	1回
ポリオ（急性灰白髄炎）	ポリオワクチン	定期	初回		3ヶ月齢から90ヶ月齢までにあるもの	3回
			追加		3～90ヶ月齢	1回
インフルエンザ菌b型(Hib)	インフルエンザ菌b型ワクチン	任意	初回		2ヶ月齢以上5歳未満	3回
			追加		接種もれ者	1回
黄熱病	黄熱ワクチン	任意				
おたふくかぜ（ムンプス）	おたふくかぜワクチン	任意			12ヶ月齢以上の未罹患者	1回
A型肝炎	A型肝炎ワクチン	任意				
B型肝炎	B型肝炎ワクチン	任意	母子感染予防	HBs抗原陽性の母親から生まれたHBs抗原陰性の乳児		3回
狂犬病	狂犬病ワクチン	任意				
子宮頸がん	ヒトパピローマウイルスワクチン	任意	4価製剤		9歳以上の女性	3回
			2価製剤		10歳以上の女性	3回
水痘（みずぼうそう）	水痘ワクチン	任意			12ヶ月齢以上の未罹患者、免疫抑制状態にある者、水痘に感受性のある成人、その他	1回
肺炎球菌感染症	小児用結合型肺炎球菌ワクチン 多価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン	任意	初回		7価製剤：2ヶ月齢以上9歳以下	3回
			追加		接種もれ者	1回
ロタウイルス感染症	ロタウイルスワクチン	任意	1価製剤		生後6週～24週	2回
			5価製剤		生後6週～32週	3回

糖尿病「つばさ友の会」



はい、ピース！

近年、糖尿病患者数は急激に増加し注目を集めるようになりました。そのため世界中でより副作用が少なく、効果の高い糖尿病治療薬も開発され患者さん個々に合った薬の選択ができるようになってきました。しかし、多くの薬が使えるようになった今だからこそ、糖尿病治療の基本が食事や運動といった生活習慣であることを忘れないようにしなくてはなりません。糖尿病患者さんにとって日々の生活を楽しく、そしていかに無理なく食事・運動療法が続けられるかはこれからも大きな課題の一つです。この課題に取り組むには本人の頑張りや家族の支えだけでなく、同じ糖尿病患者さん同士のつながりや専門スタッフとのコミュニケーションが必要となってきます。



カルタ大会



時にはしっかり勉強もします



みんなで楽しくウォーキング



ビーチバレー大会

代謝内分泌科医師
徳永 麻衣子



そこで当院では日本糖尿病協会広島県支部安佐市民病院分会「つばさ友の会」を発足し、糖尿病患者さんと医療スタッフが共に親睦を図りながら活動しています。つばさ友の会は糖尿病患者さんとその家族、医師、看護師、栄養士などの医療スタッフで作られている会です。活動内容は、勉強会、食事療法に基づく料理教室、患者さん同士の情報交換会、歩く会、旅行などです。また、毎月「月刊糖尿病ライフ さかえ」を発行して糖尿病の最新情報や食事療法を活用したクッキングレシピ、患者さんの体験談、医療スタッフの声など、様々な情報提供をしています。糖尿病の患者さん、そしてご家族や糖尿病に関心のある方など、どなたでも入会することができます。入会希望の方は内科外来受付まで声をおかけください。私たちと一緒に、楽しみながら糖尿病と付き合いましょう。



内に活動が開始できる機動性を持った専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チームのことです。

研修ではDMATとは何か、DMATの役割、災害時の医療の特徴、トリアージ（診療・処置の優先順位を決めること）、災害時の連絡手段やEMS（イーミス：広域災害救急医療情報システム）の入力方法などについて学びました。

実働訓練では実際の現場を想定して、災害拠点病院、SCU（ステージングケアユニット）、災害現場を仮定した訓練を行いました。訓練とはいえ一度に何人も傷病者が運び込まれ、現場は大変混乱しました。そのような時にこそ間違いなく情報の伝達を行う必要があります。また、消防や警察などとの連携の必要性についても知る事ができ

DMAT研修

北5病棟 岡田 裕子



ました。

この度、研修に参加してたくさんのことを学びました。災害時には限られた人的物的資源の中で最大多数の患者さんの救命・良好な予後が求められることになり、そのためには個々の患者さんの治療は制限を受けることもあります。診療・処置の優先順位を決めること、搬送の順位を決めること、そのために迅速なトリアージを行うことが重要です。しかし、実際に災害が発生した際にすぐに対応できるかというと、それにはまだまだトレーニングが必要だと感じています。情報伝達方法や患者さんの観察技術など、日頃からできることは訓練し、いつでも実践できる能力を身につけていきたいと考えています。



今秋からPET/CT検査がはじまります

PET（FDG-PET）検査とは、からだの細胞が栄養とするブドウ糖にフッ素-18[^{18}F]という放射線放出物質をつけたFDGという薬剤を静脈注射し、その取り込みを、からだの外からPETカメラでとらえる検査です。一般に、がん細胞や炎症細胞は、正常細胞よりも代謝が活発でブドウ糖の取り込みが多いため、これらの病変を異常集積部としてとらえることができます(図1)。

PET / CT検査とは、PETとCTが一体型となった装置(図2)で、一度の検査で全身のPET画像とCT画像を得ることができます。PETによる細胞代謝の情報と、CTによる病変の位置や形態の情報を重ね合わせることで、PET単独の検査よりも高い診断能がえられます(図3)。

PET / CT検査で、他の検査で見つかった病変ががんであるかどうか、その位置や大きさを調べたり、存在部位のわからなかった病変を確認することができます。全身を一度に撮像できるので、転移や再発の発見にも役立ちます。しかし残念ながら、ブドウ糖の取り込みが少ない病変や小さい病変など、検出できないものもあります。また、がんと、炎症や正常な生理的集積との鑑別がつかないこともあります。

・体内に投与された放射線放出物質はごく少量で、2時間ごとに半分に減少していき、1日経過するころにはほとんど体内に残っていません。

・PET / CT装置での撮像時間は約20分ですが、準備や待機、追加撮像などのため、検査全体の所要時間は3時間くらいになります。



放射線科主任部長
小野 千秋

**** 当院では、検診目的の検査は当面行わず、PET/CT検査を地域のがん診療に生かしていく予定です。当院で検査を受けていただくには、主治医からの依頼、紹介が必要です。**



図1



図2 PET/CT装置

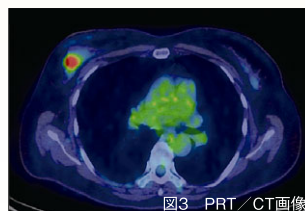


図3 PET/CT画像

「田島のおじちゃん」と 絵手紙作品の展示

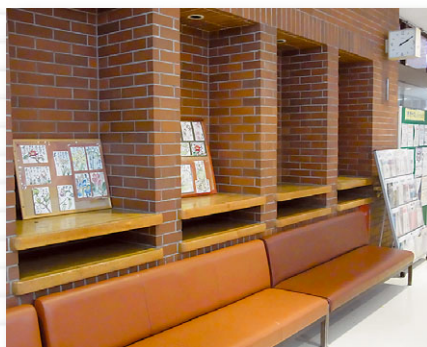
おしらせ

公民館絵手紙教室の作品が安佐市民病院ロビーの一角にも展示されています。

通称「田島のおじちゃん」が作品を定期的に交換して下さり、診察待ちの患者さんにも好評をいただいています。

どの絵手紙も心温まる作品ばかりで、病院ロビーでの展示にふさわしいものばかりです。

待ち時間のある方は是非一度足を止めてご覧下さい。



がん患者さんのミニサロン

患者サロン「すずらん」では、「栄養」「お薬」「ご家族の悩み」の相談会を毎月（祝日は除きます）サロンで下記のように開催しております。

毎月第1木曜日 午後2時～3時
ご家族の相談会
がん相談員とソーシャルワーカーが患者さんのご家族の悩みにお答えします。

毎月第2木曜日 午後2時～3時
お薬の相談会
がん患者さんのお薬や副作用に関するお悩みに薬剤師がお答えします。

毎月第4木曜日 午後2時～3時
食事と栄養の相談会
手術後や治療中の食事や栄養のお悩みに栄養士がお答えします。

※予約は不要です。お気軽に南館1階 患者サロンまでお越しください。
お問い合わせ…安佐市民病院医療支援センター がん相談窓口 (082)815-5211(内線2289)

がん患者サロン すずらん

2012年度 下半期予定表

日程	テーマ	講師
10月18日	おしゃべり会	看護師が同席します
11月15日	「放射線治療って何だろう?」	放射線科 部長 伊東 淳
12月20日	クリスマス・ハンドマッサージ	看護師が同席します
1月17日	「婦人科がん」の勉強会	産婦人科 部長 谷本 博利
2月21日	おしゃべり会	看護師が同席します
3月21日	ハンドメイド教室「タオル帽子」 フェイスタオル1枚でオリジナル帽子を作ろう!	組合相談室 安達 MSW

●講師は都合により変更となる場合があります。
●場所は南館1階患者サロンで午後2時～3時開催予定ですが、会場が変更となる場合もあるため、その都度ご確認ください。
●予約が必要な場合もございます。
●対象は、当院のがん患者さんとそのご家族の方です。

お問い合わせ先：広島市立安佐市民病院 医療支援センター
がん相談支援室 (082)815-5211 (内線 2289)

第9回 安佐市民病院 健康祭り

10月13日(土) 10時～14時

●健康チェック
●健康相談
●栄養士相談
●理学療法士相談
●作業療法士相談
●薬剤師相談
●歯科医師相談
●看護師相談
●がん相談員・ソーシャルワーカー
●おもしろさ大賞

第9回 健康祭り 特別企画
広島市立安佐市民病院
平成24年10月13日(土) 10時～14時

ブラックジャック セミナー
Part III

手術器具特別展示
手術器具に見て触れて
明日から君も
ブラックジャック だ!

ごあんない

皆さまの声

◆「皆さまの声」記入欄
風呂
・20分の入浴時間が守られず予定時間と予約していても大幅に遅らされる。
・風呂が熱くても、次の人に申し送りされない時が多い。
・トイレのトイレをゆわでる。
・トイレ・大便を流さない人が居る。流し方の指導はきちんとされている?
・小便の安全柵が、じまとして、年寄りか小便をフロアにこぼしトイレ内がベタついて臭い臭い不衛生になっている。

日付 年 7 月 13 日

◆「皆さまの声」記入欄
正室の間の予約機、7時30分間隔でも、その前の来客機械の前に、訪客や駐車場の券を置いて本人がいらない場合の取扱いを、おねがい。
やめてほしい。案内や案内の人も早く来て、早くの受付で、本人も早く待つよう注意してほしい。早く来て待つ人に失礼がある。

日付 年 7 月 26 日

療養中、不快な思いをおかけして申し訳ございません。

入浴を希望される患者様全員に入浴していただくため、入浴時間1人20分に設定させていただいております。入院時のオリエンテーションにおいて、今後できるだけ時間を厳守していただくよう説明をしっかりとさせていただきます。また入浴を待たれている次の患者様への連絡は、今後、職員で行わせていただきます。

トイレにつきましては、職員がより一層気を配り、汚染があれば速やかに清掃等、対応させていただきます。小便器の手すりについては、これを必要とされる患者様も多数いらっしゃいますので撤去等は考えておりません。

皆さまの声に貴重なご意見をありがとうございました。今後もお気づきの点がございましたら、ご意見をお寄せいただけますようお願いいたします。(南5病棟)

このたびは「皆さまの声」へ貴重なご意見ありがとうございました。ご指摘のように、再来受付機の上に、診察券や駐車券を置いて順番を確保し、その場を離れられることは、並ばれている患者様に不愉快な思いを与えると同時に、診察券や駐車券の紛失等のトラブルにもなりかねません。

そのような患者様がおられた場合は、毎朝、再来受付機を起動させている守衛から、その患者様へご注意申し上げるよういたします。

今後とも、皆さまに満足していただけるよう努力してまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。(事務室 医事係)

【病院機能評価】

認定証

Certificate of Accreditation

認定第JC497-2号
Accreditation Number

審査体制区分4
(ver.6.0)
Assessment system division 4

病院名
広島市立安佐市民病院
Hiroshima City Asa Hospital

貴病院が日本医療機能評価機構の定める認定基準を達成していることを証する
This is to certify that the above hospital has demonstrated satisfactory compliance with the applicable JCIHC accreditation standards.

認定期間：2010年4月25日～2015年4月24日
April 25, 2010-April 24, 2015

発行日：2010年5月7日
Issue Date: May 7, 2010

財団法人 日本医療機能評価機構 理事長 井原 哲夫
Japan Council for Quality Health Care Chairman of the Board Toshiyuki Iihara

安佐市民病院の理念と基本方針

理 念

- ・愛と誠の精神をもって医療を提供します。
- ・地域の基幹病院として高度の医療・ケアを行います。

基本方針

1. 患者さまの立場を尊重し、理解と納得 にもとづいた医療を行います。
2. 安全な医療と快適な療養環境の提供に努めます。
3. 地域と連携し、地域医療、救急医療、トータルケアの水準の向上に努めます。
4. 最新の医療にとりくみ、医療・医学の進歩に貢献します。
5. より良い医療サービス提供のため、健全な病院運営に努めます。